

妙法蓮華經。常不輕菩薩品。第二十

爾の時に佛、得大勢菩薩摩訶薩に告げたまわく、

汝今當に知るべし、若し比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷の

法華經を持たん者を、若し惡口・罵詈・誹謗することあらば、

大なる罪報を獲んこと前に説く所の如し。其の所得の功德は向

に説く所の如く眼・耳・鼻・舌・身・意清淨ならん。

得大勢、乃往古昔に無量無邊不可思議阿僧祇劫を過ぎて佛い

ましき。威音王如來・應供・正徧知・明行足・善逝・世間解・

無上士・調御丈夫・天人師・佛・世尊と名けたてまつる。劫を

離衰と名け、國を大成と名く。其の威音王佛彼の世の中に於

て、天・人・阿修羅の爲に法を説きたもう。聲聞を求むる者の

爲には應ぜざる四諦の法を説いて、生・老・病・死を度し涅槃を

究竟せしめ、辟支佛を求むる者の爲には應ぜざる十二因縁の法を説

き、諸の菩薩の爲には、阿耨多羅三藐三菩提に因せて、應ぜ

る六波羅蜜の法を説いて佛慧を究竟せしむ。

得大勢、是の威音王佛の壽は四十萬億那由他恒河沙劫なり。

正法世に住せる劫數は一閻浮提の微塵の如く、像法世に住せ

る劫數は四天下の微塵の如し。其の佛、衆生を饒益し已つ

て、然して後に滅度したまいき。正法・像法滅盡の後、此の

國土に於て復佛出でたもうことありき。

亦威音王如來・應供・正徧知・明行足・善逝・世間解・

無上士・調御丈夫・天人師・佛・世尊と號けたてまつる。是の如

く次第に二萬億の佛います、皆同じく一號なり。最初の威音王

如來既已に滅度したまいて、正法滅して後像法の中に於て、

増上慢の比丘、大勢力あり。爾の時に一りの菩薩比丘あり、

常不輕と名く。

得大勢、何の因縁を以てか常不輕と名くる。是の比丘凡そ見

る所ある若しは比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷を皆悉く
禮拜讚歎して、是の言を作さく、

我深く汝等を敬う、敢て輕慢せず。所以は何ん、汝等皆菩薩
の道を行じて、當に作佛することを得べしと。

而も是の比丘、專らに經典を讀誦せずして、但禮拜を行
ず。乃至遠く四衆を見ても、亦復故らに往いて禮拜讚歎して、

是の言を作さく、
我敢て汝等を輕しめず、汝等皆當に作佛すべきが故にと。

四衆の中に瞋恚を生じて心不淨なる者あり、惡口罵詈して言
く、

是の無知の比丘、何れの所より來つて、自ら我汝を輕しめ
ずと言つて、我等がために當に作佛することを得べしと授記す

る。我等是の如き虛妄の授記を用はずと。
此の如く多年を経歴して、常に罵詈せらるれども瞋恚を生

ぜずして、常に是の言を作す、
汝當に作佛すべしと。

是の語を説く時、衆人或は杖木・瓦石を以て之を打擲す
れば、避け走り遠く住して、猶お高聲に唱えて言わく、

我敢て汝等を輕しめず、汝等皆當に作佛すべしと。
其の常に是の語を作すを以ての故に、増上慢の比丘・比丘尼

・優婆塞・優婆夷、之を號して常不輕と爲く。是の比丘終ら
んと欲する時に臨んで、虛空の中に於て、具さに威音王佛の先に説

きたもう所の法華經二十千萬億の偈を聞いて、悉く能く受持
して、即ち上の如き眼根清淨・耳・鼻・舌・身・意根清淨

を得たり。是の六根清淨を得已つて、更に壽命を増すこと二
百萬億那由他歲、廣く人の爲に是の法華經を説く。

時に増上慢の四衆の比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷の是の人
を輕賤して爲に不輕の名を作せし者、其の大神通力・樂說辯力

・大善寂力を得たるを見、其の所説を聞いて、皆信伏隨從す。

是の菩薩復千萬億の衆を化して、阿耨多羅三藐三菩提に住せし

む。命終の後、二千億の佛に値いたてまつることを得、皆

日月燈明と號く。其の法の中に於て是の法華經を説く。是の

因縁を以て復二千億の佛に値いたてまつる、同じく雲自在燈王

と號く。此の諸佛の法の中に於て受持・讀誦して、諸の四衆の

爲に此の經典を説くが故に、是の常眼清淨・耳・鼻・舌・身

・意の諸根の清淨を得て、四衆の中に於て法を説くに、心畏

る所なかりき。

得大勢、是の常不輕菩薩摩訶薩は、是の如き若干の諸佛を

供養し恭敬・尊重・讚歎して、諸の善根を種え、後に復千

萬億の佛に値いたてまつり、亦諸佛の法の中に於て是の經典を

説いて、功德成就して當に作佛することを得たり。

得大勢、意に於て云何、爾の時に常不輕菩薩は豈に異人なら

んや、則ち我身是れなり。若し我宿世に於て此の經を受持し

讀誦し、他人の爲に説かずんば疾く阿耨多羅三藐三菩提を得る

こと能わじ。我先佛の所に於て此の經を受持し讀誦し、人の爲

に説きしが故に、疾く阿耨多羅三藐三菩提を得たり。

得大勢、彼の時の四衆の比丘・比丘尼・優婆塞・優婆夷は、

瞋恚の意を以て我を輕賤せしが故に、二百億劫常に佛に値わ

ず、法を聞かず、僧を見ず、千劫阿鼻地獄に於て大苦惱を受く。

是の罪を畢え已つて、復常不輕菩薩の阿耨多羅三藐三菩提に

教化するに遇いにき。

得大勢、汝が意に於て云何。爾の時に四衆の常に是の菩薩を

輕しめし者は、豈に異人ならんや、今此の會中の跋陀婆羅等の五

百の菩薩、師子月等の五百の比丘、尼思佛等の五百の優婆塞の、

皆阿耨多羅三藐三菩提に於て退轉せざる者は是れなり。

得大勢、當に知るべし、是の法華經は大に諸の菩薩摩訶薩を饒益して、能く阿耨多羅三藐三菩提に至らしむ。是の故に諸の菩薩摩訶薩、如來の滅後に於て、常に是の經を受持し讀誦し解説し書寫すべし。

爾の時に世尊、重ねて此の義を宣べんと欲して、偈を説いて言わく、

過去に佛いましき 威音王と號けたてまつる

神智無量にして 一切を將導したもう

天・人・龍神の 共に供養する所なり

是の佛の滅後 法盡きなんと欲せし時

一りの菩薩あり 常不輕と名く

時に諸の四衆 法に計著せり

不輕菩薩 其の所に往き到つて

而も之に語つて言わく 我汝を輕しめず

汝等道を行じて 皆當に作佛すべしと

諸人聞き已つて 輕毀罵詈せしに

不輕菩薩 能く之を忍受しき

其の罪畢え已つて 命終の時に臨んで

此の經を聞くことを得て 六根清淨なり

神通力の故に 壽命を増益して

復諸人の爲に 廣く是の經を説く

諸の著法の衆 皆菩薩の

教化し成就して 佛道に住せしむることを蒙る

不輕命終して 無數の佛に値いたてまつる

是の經を説くが故に 無量の福を得

漸く功德を具して 疾く佛道を成ず

彼の時の不輕は 則ち我が身是れなり

時の四部の衆の 著法の者の

不輕の汝當に 作佛すべしというを聞きしは

是の因縁を以て 無數の佛に値いたてまつる

此の會の菩薩 五百の衆
并及に四部 清信士女の
今我が前に於て 法を聽く者是れなり
我前世に於て 是の諸人を勸めて
斯の經の第一の 法を聽受せしめ
開示して人を教えて 涅槃に住せしめ
世世に 是の如き經典を受持しき
億億萬劫より 不可議に至つて
時に乃し 是の法華經を聞くことを得
億億萬劫より 不可議に至つて
諸佛世尊 時に是の經を説きたもう
是の故に行者 佛の滅後に於て
是の如き經を聞いて 疑惑を生ずることなかれ
應當に一心に 廣く此の經を説くべし
世世に佛に値いたてまつりて 疾く佛道を成ぜん